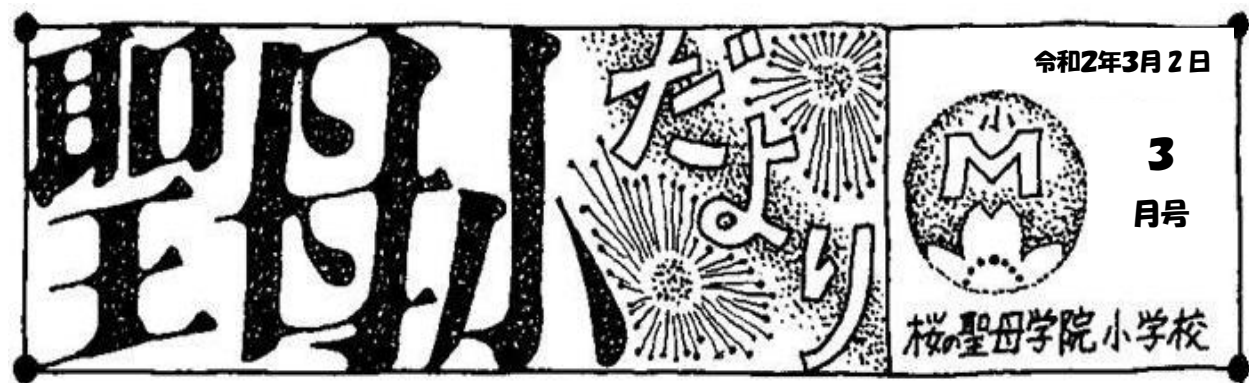




毅然として「大切なもの」を生きる

学校長：川田 紀美子

○この一年を振り返ってみますと、海外からの訪問者がとても多かったです。特に本学院の設立母体であるコングレガシオン・ド・ノートルダム修道会の関係者でした。ある方々は一週間、あるいは三週間、幼小部で子ども達との生活を共にされました。カメルーン、グアテマラ、ホンジュラス、アメリカ合衆国、カナダ、ドイツ、そしてタイからと、言語も民族衣装も多種多様でした。しかし、子ども達はいつも、笑顔で優しく、そのホスピタリティは素晴らしかったです。ですから、もちろん、いつも愛される子ども達でした。これは私も教職員の誇りでもありました。

○今年、2020年4月17日は、コングレガシオン・ド・ノートルダム修道会の創立者 聖マルグリット・ブールジョワの生誕400年に当たります。マルグリット・ブールジョワがフランスから未開の地 カナダに渡り、最初の学校としたのは、石造りの家畜小屋でした。その後、この福島の地に、幼稚園に続いて1946年に小学校を開校しました。と言いましても、旧修道院一階ホールを三つに仕切り、16名の児童と5名の教職員、そして園児用の机と椅子、ピアノ一台のスタートでした。いずれも開校当初は貧しいものでした。でも、そこでの教えは、最高に素晴らしいものであったと思います。

○開校最初の始業式では、浦川司教様が、校名「桜の聖母」の意味を次のように話されました。「桜は子どもの心の美しさと純潔さを象徴します。これらの聖徳を得るためには、類いない模範でおられるマリア様を仰ぎ、マリア様の眼差しの下で、子ども達は学び、遊ばなければなりません。」と。

○開校以来82年。社会も家庭のありようも大人の価値観も変わりました。でも、カトリック校として大切にしたいこと、聖マルグリット・ブールジョワの子ども達として大切にしたいこと…。これらは変わりません。親も教職員も、毅然として「大切なもの」を生き、伝えていきたいものです。「大切なもの？」…。皆様は、何と答えられますか。互いに置かれた立場から、この一年の生き方を振り返ってみましょう。

○一年間のご支援、ご協力に感謝いたします。

卒業練成会&ミサ聖祭～自分のミッションとは何だろう～ 2020/2/12

宗教科：定方 一悦

2月12日に6年生は、卒業練成会を行ないました。サレジオ会の関谷神父様のご指導で、午前中は聖書の物語の深い意味をお聞きしたり、協力を学ぶワークショップ「ペーパープレゼント」を行なったりしました。特に印象的だったのは「ありがとう」は「有り難い」(めったにない)ことが語源であり、それは神さまからの「めぐみ」と同じということでした。

ワークショップのふりかえりでは「他の人にたくさん与えることができる人は、たくさんのめぐみをいただける。」マザーテレサについてでは「無視は心の殺人」などの話をお聞きしました。

午後は講堂でミサを行ない、キリストを記念するミサの意味を分かりやすく教えていただきました。一日を通して、子どもたちはよく聞き、よく考えました。神父様の話をどんどん吸収し、自分のものになっていることが見ていてもよくわかりました。中学校生活に向けて自分自身を振り返る、充実した一日となりました。



ミサ聖祭：小学校講堂

ありがとうございました!!

資源回収 学校側担当：湯川 洋

●先月15日(土)に今年度第3回の「資源回収」を行ないました。毎回、朝早くから温かいご協力をいただきました。深く感謝申し上げます。

★今回の総量…1,720 kg()円)

ペルマーク作業 学校側担当：定方 一悦

●同日に「ペルマーク作業」を行ないました。皆様方のお力によりまして、スムーズに進めることができました。今年度1年間のご協力に心より御礼申し上げます。

★今回の点数…28,048 点

おめでとうございます!!

第64回記念 福島県書きぞめ展

・書きぞめ大賞 4年：
・書きぞめ賞 5年：
・書きぞめ奨励賞 3年：
6年：

*学校として「優秀学校賞」を頂きました。

第16回 英語絵本リーディングコンペティション

・ソロリーディング小学生の部
第2位 4年：
第3位 6年：

★3学期も様々な行事がありました。校外学習は、「消防署〈3年〉」を取り上げましたが、他にも「点字図書館〈4年〉」古閑裕而記念館〈4年〉「テレビ局〈5年〉」「裁判所〈6年〉」の見学を行ないました。(武藤)

消防署の見学 2020/2/7

3年1組

私は7日(金)に校外学習として「福島消防署」に行きました。まず、動画を見て、消防士の仕事内容を知ることができました。その後、服装や道具、消防車、救急車を見ることができました。救急車を近くで見たのは初めてで、中には人を助けるための道具がたくさんあることに驚きました。



最後に、はしご車を見ました。実際に動いているところを見るのも初めてでした。消防署で働いている人たちは、私たちのために働いている立派な人たちだと思いました。

スキー合宿訓練を終えて 2020/2/3~5

5年1組

スキーレッスンでは、グループで「声を出す」「話をしっかり聞く」「指導して頂いたことを確実に身に付ける」という目標を立て、練習に励みました。そして、全体を通して、先生の指示に元気で大きな返事をすることができました。また、返事だけでなく、友だち同士でアドバイスし合うことや、疲れたときや難しい練習のときに暗い空気にならないように、盛り上げることができました。「声を出す」「声をかけ合う」は、5年生が学校生活でも常に言われていることです。スキーのレッスンを通して、「声をかけ合う」ことで意識の持ち方がどれだけ変わるのかということに気づき、学びました。このことを忘れずに、これからの学校生活を過ごしたいです。

他にも、今後に生かしていきたいと思ったことが、たくさんありました。特に私は、6年生が率先して手伝いをする姿が目に残っています。例えば、自分のことよりも先に、私たち5年生や友だちのことを優先していました。また、昨年や前日の経験を生かして、先生から指示される前に動いていました。どちらの行動も、周りを見ているからこそできることだと思います。私も、目の前のことだけでなく、全体にも目を向けられるよう、心がけたいです。スキー合宿訓練で身に付けた技術、そして6年生が言葉や行動で教えてくれたことを、来年度の5年生に伝えることができるようにしたいと思います。私たちの成長と安全をお祈りしていただいた先生方、下級生の皆さん。ありがとうございました。

6年1組

私はスキーに苦手意識があり「なるべく転ばないように集中する」「先生の話をよく聞き、積極的に声を出す」という基本的な目標を立てました。レッスンでは、とにかく技術の向上を目指しました。二日目のレッスンの時点で、シュテムターンで滑ることができるようになりました。一日目には転ぶことが多くあったので、二日目からは簡単に転ばないようにしました。皆で思ったことを声に出し合い、具体的なアドバイスをくれた応援をしたことにより、三日間、よい雰囲気の中でレッスンに取り組めたと思います。

宿舎では「整理整頓を常に意識すること」と「見えないところまできれいにすること」を目標にしました。これは、私が去年の6年生から引き継いだことなので5年生にも教えました。余裕を持って行動することも意識しました。五分前行動の大切さを5年生にしっかりと伝えられたと思います。生活班で過ごす時間は限られていましたが、5年生に伝えたいことは、全て伝えることができました。

二年間を通して、スキーでも宿舎でも、自分でできることを全てやりきり、悔いなく終えることができました。今回の経験と学びを合宿訓練で終わらせたくありません。残りわずかとなった小学校生活で、5年生をはじめ、後輩たちに、6年生としてのあるべき姿を見せていきたいです。



塩沢スキー場 ゲレンデ